

第3学年 国語科学習指導案

3 年 15名
指導者 和田 久美子

1 単元名 音読発表会をしよう ～「ちいちゃんのかげおくり」～

2 指導にあたって

(1) 単元設定の理由

戦後60余年が過ぎ、祖父母の世代さえ戦争を経験していない学習者が増えてきた。教師自身も父母世代から伝え聞いた知識しかない。平和の重みやありがたさが薄れつつある今、学習者に家族の絆の大切さ、何もかも奪い取る戦争の理不尽さを知らせ、平和の尊さを感じてほしいと思う。

本学級の学習者は、これまで『きつっきの商売』と『三年とうげ』で物語文を学習してきた。『きつっきの商売』では、音読発表会を開き、グループで声をそろえて読んだり、役割読みをしたりして、擬音や会話文の楽しさを味わった。『三年とうげ』では登場人物の特徴やお話のなぞなど、いろいろな観点で、おもしろさを紹介する文を本の帯に表した。また、出てきた歌を読み比べて音読し、違いを味わった。さらに、民話に共通する先人の教えに気づかせたいと思い、世界の民話を読み合った。学習者の読む力には個人差があるので、言葉や文のまとまりに気を付け、発した声を聴きながら読むことにより、内容の理解が深まる音読の力を付けたい。そして、正しく読み取る力をつけると同時に、読み取ったことや自分の思いを音読によって表現する力を養いたい。

本単元では、『ちいちゃんのかげおくり』という戦争児童文学に学習者が初めて出会う。「戦争体験は、現代の民話である」と松谷みよ子さんは言われる。おもしろい話や不思議な話、こわい話を好む3年生にとって、事実としてあった戦争の話の悲しさに戸惑うことや、生活にない言葉や当時の時代背景について想像しがたい部分も出てくるであろう。戦争時の人々のくらしや思いにふれ、自分と違う世界に住む登場人物の気持ちに同化し、戦争の悲惨さを読み取らせたい。そして、ちいちゃんが最後まで信じ続けた願いや希望は、学習者と変わりのないことに気付かせ、平和を願う強い思いに迫らせたい。そのために、本単元では、音読を目的及び手段として中心に据えた展開をする。音声表現の工夫について話し合うことは、必然的に意味内容を考えることになり、主体的な読みにつながると思う。音読を通して内容を理解し、相手によく分かるように大事な言葉に気をつけて、表現読みができるようにしたい。そして、体験を語り継いでいく方々からいただいた心やことばを3年生なりに受け止め、本教材の音読発表会を開き保護者や2年生に聞いてもらおうと考え、本単元を設定した。

本時の学習は、ちいちゃんの明るい希望のあった「かげおくり」の場面と戦争によって悲しい現実となった「かげおくり」の場面对比させながら、平和を願い続けたちいちゃん的心情を想像させる。家族と会えた場面では、ちいちゃんとしてはうれしいながらも、ちいちゃんが死んだことを理解した学習者が悲しさを受け止めながら読めるようにさせたい。

(2) ことばを大切に、「読むこと」を通して、自分の考えを深め表現できる力を育てる手だて

- 追い読みや交代読みなど理解を助ける様々な音読をし、区切り目や大事な言葉を意識して音読できるようにする。
- グループで読みの工夫を話し合い、音声記号やト書きを書きこむことにより、情景を豊かに想像し、自覚的に読めるようにする。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

- 「ちいちゃんのかげおくり」の音読発表会をしよう。

(2) 指導目標

- 伝えたいことを進んで表現できるようにする。
- 場面の移り変わりや情景を想像しながら読むことができるようにする。
- 場面の様子や登場人物の心情がよく分かるように声に出して読むことができるようにする。
- 伝えたいことを相手に分かるように話すことができるようにする。

4 評価について

	評価規準	「十分満足できる」状況 「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
関心 ・ 意欲 ・ 態度	伝えたいことを進んで表現しようとしている。	・「十分満足できる」状況 伝えたいことを豊かに表現しようとしている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 表現の優れた学習者のよいところを見付けさせる。	学習者の様子
読むこと	場面の移り変わりや情景を豊かに想像しながら読んでいる。 (読むことウ) 場面の様子や登場人物の心情がよく分かるように声に出して読んでいる。 (読むことカ)	・「十分満足できる」状況 登場人物の心情の変化を場面の移り変わりとともに読み取っている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 登場人物の人となりについて叙述をもとに話し合わせたり、吹き出しを書き加えたりして理解を深めさせる。 ・「十分満足できる」状況 場面に応じて様子や情景がよく分かるように工夫して読んでいる。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 場面ごとのちいちゃんの気持ちを「元気度いくつ」で考えさせる。	学習の記録 発言 音読の様子
話聞すること と	伝えたいことが相手に分かるように話している。 (話すこと・聞くことア)	・「十分満足できる」状況 登場人物の心情や情景に応じて、伝えたいことが分かるように適切に話している。 ・「おおむね満足できる」状況にするための手だて 登場人物の感情や情景によって、速さや大きさなどにどのような変化を付けるか話し合わせる。	発言 学習者の様子

5 学習計画 (全13時間)

身に付けさせたい力	学習活動と指導 (★)	学習者の意識の流れ
[関心] 伝えたいことを進んで表現しようとする。 [読む] 場面の移り変わりや情景を想像する。 [読む] 場面の様子や登場人物の心情がよく分かるように声に出して読む。 [話す・聞く] 伝えたいことが相手に分かるように話す。	事前 ★ゲストティーチャーから戦争時の体験について聞き、当時のことについて興味や関心をもつことができるようにする。 1 学習計画を立てる。(3時間) ★戦争時代の生活のことばや時代背景を説明し、ちいちゃんのころの生活を想像させる。 ★『ちいちゃんのかげおくり』の音読発表会をしようという計画を立てる。 2 『ちいちゃんのかげおくり』を読む。 (6時間 本時5/6) ★挿絵と文章を照らし合わせてお話の筋を読み取らせる。 ★登場人物の行動や言葉から、人となりを読み取らせる。 ★「かげおくり」の場面を比較し、よく似た言葉を比べ、表現の違いを理解させる。 ★公園に来る人たちと学習者を重ね合わせ、ちいちゃんのことを多くの人に知らせようという意欲を喚起する。 3 『ちいちゃんのかげおくり』の音読発表会をする。 (4時間) ★ちいちゃんの思いに迫らせながら読み手として語れるようにする。 ★学習者の選んだ伝えたい場面を工夫して読ませる。	どんなくらしをしていたのかな。 どんな物を食べていたのかな。 どんな遊びをしていたのかな。 戦争中のお話を聞きたいな。 わからない言葉があったな。 苦勞がいっぱいあったんだね。 戦争ってこわいなあ。 「ちいちゃんのかげおくり」の音読発表会をしたいなあ。 「すごい。」はどう読むのかな。 初めてのかげおくりは楽しかっただろうな。 最後の記念写真だったんだね。 ちいちゃんの元気度はどれくらいかな。 空襲のところは、早口で読むといいかな。 逃げる時、こわかっただろうな。 お母さんとはぐれてかわいそうだな。 音読記号を書き込むと、読みやすいね。 はぐれたところはどう読めばいいかな。 ひとりぼっちで寂しかっただろうな。 家族とはぐれても、がんばっているな。 どのように読むと、よく伝わるかな。 ちいちゃんの命が消えていく場面なんだな。 「・・・まし。」のところが違っているね。 家族にやっと会えてうれしかっただろうな。 戦争はちいちゃんからいろんなものをうばったんだね。でも、願ひだけは奪えなかったね。ちいちゃんのことをみんなに知らせたいな。 どの場面を読もうかな。 どんなふうに伝えるとよく分かってもらえるかな。 戦争の怖さを音や光を使って表したいな。 参観日に聞いてもらいたいな。2年生にも教えたいな。

6 本時の学習

(1) 目標

① 学習者の活動目標

二つの「かげおくり」の違いが表れるように音読しよう。

② 指導目標

場面の情景を想像しながら、違いが表れるように音読できるようにする。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	具体の評価規準
1 学習のめあてを確認する。	・ 1・4の場面の「かげおくり」を比べさせる。	場面の情景を想像して、違いが表れるように音読している。
二つの「かげおくり」のちがいが表れるように音読しよう。		
2 家族みんなでしたかげおくりと、ちいちゃんがたったひとりでしたかげおくりの違いについて読み取る。	・ 1の場面が「記念写真」に家族の願いが込められていることをふまえておく。 ・ 4の場面はちいちゃんがたったひとりで行いながらも家族を思い浮かべる切なさ、絆の深さをとらえさせる。 ・ 声量や速さ、気を付ける言葉など音読記号を確認させる。	
3 2つの「かげおくり」の違いが表れるように音読する。	・ グループで音読の仕方を話し合いながら工夫させ、ト書き・音読記号などを書き込ませる。	
4 本時の学習を振り返る。	・ 友達の音読を聞き、よかったところや工夫を見付けさせる。	

(3) 評価

評価規準 「十分満足できる」状況	「おおむね満足できる」状況にするための手だて	評価の資料
場面の情景を想像しながら、違いが表れるように工夫して音読している。	・ 似ているところと違うところを比べ、情景の違いを理解させる。 ・ 違いが表れるように気を付けるところを音読記号やト書きで示させる。 ・ ちいちゃんの元気を☆いくつで表し、自分がどのように読みたいか、なぜそう読みたいか工夫の観点を書き込んで取り組ませる。	・ ワークシート ・ 児童の様子 ・ 音読の様子